

第142回日商簿記3級 第1問 仕訳問題類題 問題・解答

次の各取引について仕訳しなさい。ただし、勘定科目は次の中から最も適切と思われるものを選ぶこと。

現金	当座預金	有価証券	貸付金
手形貸付金	従業員立替金	未収入金	備品
備品減価償却累計額	借入金	手形借入金	未払金
所得税預り金	社会保険料預り金	受取利息	有価証券売却益
雑益	固定資産売却益	給料	減価償却費
支払利息	有価証券売却損	固定資産売却損	雑損
現金過不足			

- 平成25年3月16日に購入した備品（取得原価：¥600,000、残存価額：ゼロ、耐用年数：5年、償却方法：定額法、記帳方法：間接法）が不要になったので、平成27年3月15日に¥400,000で売却し、代金は当月末に受け取ることとした。なお、決算日は3月31日とし、減価償却費は月割りで計算する。
- 従業員への給料の支払いにあたり、給料総額 ¥500,000のうち、所得税の源泉徴収分 ¥20,000と、従業員が負担すべき社会保険料 ¥30,000を差し引き、残額を当座預金口座より従業員の普通口座に振り込んだ。
- 得意先南山商店に期間10か月、年利率3%で¥1,000,000を借用証書にて貸し付けていたが、本日、満期日を迎えたため利息とともに同店振出しの小切手で返済を受けた。
- 当期首に購入した中京ベースボール株式会社の普通株式500株（取得原価：¥505,000）を、1株あたり¥1,000ですべて売却した。なお、売買手数料 ¥3,000を差し引いた手取額は、4営業日後に当座預金口座に振り込まれる予定である。
- 月末に金庫を実査したところ、紙幣・硬貨 ¥123,400、得意先振出しの小切手 ¥20,000、約束手形 ¥25,000、郵便切手 ¥3,000、収入印紙 ¥4,000、配当金領収証 ¥5,000が保管されていたが、現金出納帳の残高は¥145,000であった。不一致の原因を調べたが原因は判明しなかったため、現金過不足勘定で処理することにした。

・解答

	借方科目	金額	貸方科目	金額
1	備品減価償却累計額	130,000	備品	600,000
	減価償却費	120,000	固定資産売却益	50,000
	未収入金	400,000		
2	給料	500,000	所得税預り金	20,000
			社会保険料預り金	30,000
			当座預金	450,000
3	現金	1,025,000	貸付金	1,000,000
			受取利息	25,000
4	未収入金	497,000	有価証券	505,000
	有価証券売却損	8,000		
5	現金	3,400	現金過不足	3,400